



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

「立志式を終えて」

私は、立志式を通して、自己の生活を見つめ、振り返り、自立して人のことを思いやれるような優しい人になりたいと思いました。立志式の練習では、歩き方や礼の仕方等の礼儀作法において、自分がまだ不十分であることに気づきました。普段から人に見られても恥ずかしくないような態度でいることが大切だと思いました。

また、将来に向けた抱負として、私は色紙に「恕」の漢字を書きました。思いやりをもち、相手の立場に立って考えることができるような優しい大人に成長したいと考えたからです。これからは、日々のゴミ拾いや困っている人を助けること、人に優しく接することを心掛けたいと思っています。性別、障がい、異文化等への偏見をなくし、多様性を認める素敵な大人になれるように、これからもっと頑張りたいと思います。

4 質の高い教育をみんなに

17 パートナリプで目標を達成しよう

東原 岸舎西溪校

8年1組
梶原 愛加

連載

多久市の指定文化財 (12)

一 渋木の石造六地藏 一 「多久市重要文化財」

東多久町大字別府二二九九番地
地方独特の石造物です。角柱の基礎石と竿石の上に中台、蓮台、その上に6面の尊像を彫り、宝珠のある笠石が乗る構成です。集落の入口や路傍に建立され、現在も市内に多数見られます。

仏教の思想の中に六道輪廻があります。人を含むすべての命は生前の行いの結果として、死後に天道・人道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道の6つのいずれかに生まれ変わり、繰り返すという輪廻転生の考えです。六道の「道」とは再び生まれる世界(または生きる状態)を表しています。この転生する衆生を導き救済するのが地藏菩薩と信じられ、六道の入口に1体ずつ配し、衆生の魂を待たれている6体の地藏菩薩の姿を表したのが六地藏です。



▶ 渋木の石造六地藏



▶ 尊像部分の拡大

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ ほんのりと匂う花の香目をやれば 庭面にわずか 蠟梅の咲く 川浪 信子
- ◆ 地球が泣いているのに僕たちは 何もなくて 本当にいいの 野崎 隆幸
- ◆ 嫌な事忘れてしまおう 何もかも 楽しい仲間 笑顔も増える 梶原 恵美子
- ◆ 久々に開きし父の 素描帖 かくも優しき 線とは知らず 尾形 節子
- ◆ 散りてなお心惹かるる 山茶花の 赤いはなびら 吹きだまり 掃く 浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 初暦めぐりて予定加へけり 武富 律子
- ◆ 朝明の呼子朝市冬の風 本村 則子
- ◆ 天山に向かひ麦の芽青みけり 富樫 明美
- ◆ 枯蓮のセピア色なる寺の池 大谷 和
- ◆ 初詣終へたる眼海へ向け 大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 追い風が早苗に吹いた冬の陣 田代 えみこ
- ◆ 軒先の冬の風鈴 春を待つ 井上 東子
- ◆ 収支にふれず手足伸ばして生きてます 大谷 和
- ◆ 逃げてゆく万円札はどこへ散る 古賀 ひろこ
- ◆ 合格はここまですと線引かれ 西山 残月